

# 農業は 若者にとって 挑戦できる業種



**秋葉 芳秀**

Akiba Yoshihide

秋葉会計事務所  
(千葉県大網白里市)

**私**が会計事務所を開設して早くも40年が経ち、今は9人の所員(うち6人は農業経営アドバイザー)と日々仕事に追われています。2022年8月から、縁あって千葉県旭市に本店があるJAで、法人税・消費税の申告書作成にかかわるほか、毎月1回開催する農家の個別税務相談や、不定期に開催する集合形式での勉強会の講師を務めております。

この1年間の相談内容は、①高齢農家の事業承継のご相談、②個人経営から法人化移行へのご相談、③農業経営基盤強化準備金手続きのご相談、④認定農業者制度のご相談、そして⑤23年度税制改正項目の贈与税・相続税のご相談、など多岐にわたりました。

集合形式の勉強会は、直近まで

## あきば よしひで

1982年5月に税理士登録。その後TKC全国会および全国農業経営コンサルタント協会に入会。

すべてがインボイス制度に関する事でした。当JAの所在地を管轄区域とする税務署管内の農家の申告件数は、他の税務署と比較すると相当多いようです。そのため、東京国税局内(千葉県、東京都、神奈川

昨今、日本では少子高齢化により人口減少が止まらない地域もあります。それは、すなわち需要が年々歳々減少する地域で、そこで物を販売することは、魚の泳いでいない「釣り堀」で糸を垂れること



© 縄手 英樹

県、山梨県の1都3県)84税務署のなかで、23年春ごろのインボイス登録率は、当税務署が最下位だったとのこと。その理由の一つは、消費税免税事業者の農家数が他と比較して圧倒的に多いからです。

農業のインボイス制度の特例に、①農協等特例、②卸売市場特例、③媒介者特例があり、①と②で農産物を委託販売する場合、農家は免税事業者のままでよく、何もする必要がないため、この特例がインボイス登録率に強く影響しているのだそうです。

と同じです。

その点、第一次産業は、地域や集落の過疎化が進み、高齢農家の農地の遊休地化も進み、さらに人手不足が進んでも最も有望な業種と言えるでしょう。農業や畜産業は、人口減少で過疎化が進んでも影響は少なく、借入金利が低い今、若者が思い切って挑戦できる業種です。規模拡大と創意工夫で売れる物をつくり、魚がたくさん泳いでいる「釣り堀」を探し、輸出も含め需要がある場所で売っていきましょう。

**F**



農業経営アドバイザーは農業経営者のニーズに対応し、経営への総合的的確なアドバイスを実践する専門家です。2005年、農業経営の発展に寄与することを目的に日本公庫が資格制度を創設しました。本コーナーは、上級資格である上級農業経営アドバイザーが執筆しています。